

議員が見て来たものは 発見！ 展望！ 実現！

町の中だけでは知り得ぬ多くの情報を視察で得ました。議員の行政視察を報告します。

世界自然遺産「知床」

7月2日(火)

♪知床の岬に はまなすの咲く頃♪ 知床旅情の歌詞にあるとおり、「知床」は「はまなす」というイメージだが、岬の最深部は立入禁止で、見学不可能であった。我々は、世界自然遺産「知床」の活用と環境保全の取組について、公園管理団体である知床財団より説明を受けた。今日の知床があるのは、47年前に開拓が開発することなく、自然保護に舵を切った町長の英断によるものである。そして、知床財団は「自然を知り・守り・伝える」活動として、国立公園管理、生態系の保全のため、ヒゲマヤエゾシカにGPS首輪を付けての生態観察や、冬の海にやってくるトドの調査・研究、環境教育、施設運営、利用者サービスを行なっている。また、野生動物と人間との間で起きるかも知れない事故等を防ぐため、行政や地域の関係機関と協力して対策を練り、現場対応を担っている。これまで培ってきた調査・保護管理活動・自然教育活動のノウハウをもとに、人材育成や教材の開発、地域住民や観光客への普及活動を行っている。昨年に白神山が世界遺産登録30周年を迎えて、知床財団の取組を参考にし、環境保全はもとより、観光産業などの更なる活性化に努めるべきと感じた。

(大川 清光)

防ぐため、行政や地域の関係機関と協力して対策を練り、現場対応を担っている。これまで培ってきた調査・保護管理活動・自然教育活動のノウハウをもとに、人材育成や教材の開発、地域住民や観光客への普及活動を行っている。昨年に白神山が世界遺産登録30周年を迎えて、知床財団の取組を参考にし、環境保全はもとより、観光産業などの更なる活性化に努めるべきと感じた。



7月3日(水)

小清水町は、北海道東北部に位置し、4383人と当町より人口が少ない町だが、公共施設として日本初の「フェーズフリー」(日常はもちろん、非常時にも役立てることができるという防災の新しい考え方)で、防災拠点型複合庁舎を整備した。このきっかけは、2018年の胆振東部地震(震度5強)で43時間停電したことと役場庁舎の老朽化によるもので、その後、5か年計画で「子供から高齢者まで誰もが気兼ねなく過ごせる空間づくり」を目指し、住民や議会と協議を重ねて整備に至った。

この複合庁舎は、「平常時は役場とコミュニティ空間」、「災害時は災害対策室と一時避難所」となり、いつでも誰でも訪れやすい場所、「私の居場所」になって欲しいとの思いから「ワタシノ」というネーミングにしたそうだ。また、庁舎内にコインランドリーが設置されており、洗濯し



(北谷 司)

小清水町防災複合施設

原子燃料サイクル施設

7月18日(木)

私たちは「六ヶ所原燃PRセンター」で日本原燃の概要を聞き、バスから「ウラン濃縮工場」と「低レベル放射性廃棄物埋設センター」のほか、自然災害等の被害を防止する防護ネットを設置した施設を見学した。そして、また別のバスに乗り継ぎ、「高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター」などのあるエリアに入った。ここからセキユリティはさらに厳しく、身分証明等厳重な身体検査を受け、写真撮影はもちろんNG。厳重な厳重なチェック管理体制だった。かつてフランスやイギリスに委託し、返還されたガラス固化体(高レベル放射性廃棄物)が貯蔵容量28800本の内、18300本貯蔵されていた。敷地内には、使用済燃料の再処理を行う「再処理工場」と「ウラン・プルトニウム混合酸化物」

を利用してMOX燃料を作る「MOX燃料工場」が今年9月竣工に向け建設中であった。今回の視察で、おおよその流れを理解することができた。原発は、安全性への不安と常に隣り合わせ。安全に処分することは大命題である一方、東日本大震災後の2013年に決定した原子力の新しい規制体制に適合させるべく、さまざまな対策が現在進められている。通算27回目となる工程延期が避けられるよう9月完成を願う。

(福沢 秀二)

